

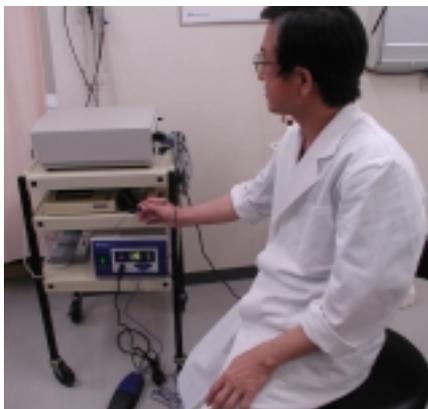
臨床に活かす バイポーラ治療のメリット

東京都目黒区 笠井耳鼻咽喉科クリニック 笠井 創 先生



レーザーとバイポーラ治療の 有効な使い分け

笠井耳鼻咽喉科クリニックでは、レーザー治療及びCoblatorとバイポーラ電源装置システム・Celon ENT(以下Celon)を使用したバイポーラ凝固治療を行っています。バイポーラ治療は、扁桃肥大、慢性扁桃炎、また、いびき治療の補助として軟口蓋や舌根部の肥大縮小等、様々な疾患に適応。Celonはアレルギー性鼻炎や肥厚性鼻炎の治療を中心に使用しています。これらの治療の使い分けを笠井先生はこう語ります。「鼻閉に対する治療では、まずレーザーによる下鼻甲介粘膜縮小手術を行い、2、3回施術しても十分に改善しないという場合にCelonによる治療へと進みます。」この段階的治療の理由は、2つの治療法とも低侵襲ではあるものの、比較すればレーザー治療がより簡便であること。例えば、初診の患者さんに対しても、診断の後に鼻粘膜への塗布麻酔だけで、レーザー照射を行うことができますが、バイポーラの場合は事前に出血傾向や感染症の有無を調べる血液検査を行い、麻酔も痛みへの十分な配慮から局所麻酔注射が選択されるなど、より入念な準備が必要となります。



一方、治療効果の面から見るとCelonによるバイポーラ凝固治療には大きな意義があるといえます。「レーザーは表層的な処置なので、下鼻甲介を収縮させるのには限界があります。その点、バイポーラ凝固治療は針状の電極を粘膜下に刺入して通電し、組織を凝固させますから、より深部からの下鼻甲介減量効果が期待できます。レーザーよりも永続的な効果が得られるといえるでしょう。」

睡眠時無呼吸症候群の 治療にも貢献

睡眠時無呼吸症候群に対するバイポーラ凝固治療は、扁桃肥大や肥厚した軟口蓋、口蓋垂を縮小させて咽頭腔を拡げる手術が一般的。これに加えて笠井先生はもう一つのユニークな治療を実践しています。



「CPAP(経鼻的持続陽圧呼吸療法)を行う患者さんの鼻閉に対するバイポーラ凝固治療を行っています。鼻閉がある場合、CPAPがうまく使えない、高い圧力をかけなければならぬという事態を招くことがあります。そんな症例に対して鼻を通してくださいという依頼が舞い込んでくるのです。」これに対して、Celonによる下鼻甲介の減量手術を施すことで鼻閉を改善し、よりスムーズなCPAPの治療につなげています。「この疾患の患者さんには鼻の通りの悪い方が相当数含まれていると考えられる」ため、このような適応は今後増えてくるだろうと笠井先生は見えています。

詳しい治療情報をウェブで発信

笠井先生は各種疾患と治療法に関する詳しい情報を自院のホームページに掲載しています。

「バイポーラ治療の適応」の項目では、各適応疾患と外来手術の実際、治療効果について解説。術後の経過写真や図が多用され、この治療を初めて知る人も具体的に理解できます。さらに、実際の治療前にはパンフレットを用いて治療法や注意点を説明し、麻酔注射の必要性や術後2か月程度は痂皮が附着して少し苦しい状態になることなど、デメリットについても納得してもらった上で治療が進められます。このような段階を経て患者さんは、不安感よりも治療への期待感を大きくして手術に臨まれるのだそうです。

「レーザー治療に経験を積まれた先生方がレーザーでは少し物足りない、もう少し高い効果が欲しいと感じられる症例に対して、Celonをはじめとするバイポーラ治療は十分な効果をもたらす治療としてたいへん意義のあるものといえるでしょう」と笠井先生は今後のバイポーラ凝固治療の普及に期待しています。

(取材:平成17年6月)



プロフィール

笠井 創 (かさい はじめ) 先生

昭和52年、千葉大学医学部卒業、耳鼻咽喉科入局。昭和58年、千葉大学大学院医学研究科卒業後、国立がんセンター病院頭頸科、横須賀共済病院・医長等を経て、平成2年、横浜にて笠井耳鼻咽喉科を開設。平成11年、自由が丘診療所を開設。